

回答番号	感想	話せなかったこと・伝えきれなかったこと
1	子育て世代の考え、気持ちをもっと聞きたかった。 地域の人の想い、思い出話を聞けたのは良かった。	AIAIに来ているお母さん達の気持ちも汲み取る事ができると良いかも。学校や園を通じて保護者の声を拾うのも良いかも。 共働き家庭が増えているので、そのサポートを強化してほしい。多少の金銭的負担はあっても良いので。 近くに祖父母もおらず、急に子どもを預ける必要が出た時などの短時間の預け先があったら嬉しい。 ファミサポは前もって予約しないと支援員さんが見つからなかったりするので。
2	落合地区の参加者が少ない。 ワークショップの開催が周知されていなし、検討課題が漠然としている。 小学校も統合されているのも一因。 教育に対して関心、熱意が無い地区柄。	今回の会議の位置付けは何か分らない。それは、これから設置される小学校保育園あり方検討審議会の前段、再編とセットになっていて、今回の意見があるから、再編、あるいは存続の結論に導く手段ではないかと。今回の意見から未来の富士見町の教育に対して、今回の意見が反映されれば良いが。わざわざ、施設設置を議論する場ではないと決めている事にも疑義を感じた。グループワークも一つの方法だし良い点は認め、結果、問題意識の共有が出来るが、問題点、課題の意見を言うだけの場になっているから今後の方向性がない。住民懇談会もそうだったが、收拾がつかなくなるのか、質疑を受ける場がないのは何故か、と思ってしまった。
3	・生産年齢人口の参加が少なすぎる ・今までの全ての住民懇談会の町からの説明及びワークショップ内容を町民と共有しないと意味がない。出生数が10年前の1/3に減少していること、町の貯蓄が5年後に底を尽きること、これだけでも町民全ての共通認識となるようにしないと、この形式の懇談会ではメンバーが固定化し広げられない ・ワークショップの各グループの内容を文字起こしし、広報などに載せたり、町の公式LINEにpdfで配信したりして欲しい	《教育現場》 ・“覚える”教育はネット授業などにし、教員の負担を軽減し、先生方には“経験する”授業に注力して欲しい。そこへ教員だけでなく、町の教えられる人を参画させる←ネットやポスターや口コミやサロンや公民館などで募集する □被爆者の公演映像や、現在や過去の戦争の現実の授業を通して平和について考えさせる □オンラインで各国や都会や沖縄から北海道のクラスと学校を紹介し合う(校舎や給食など)。国際感覚を養い世界とは、日本とは、富士見町とは考えてもらう □様々な業種のプロフェッショナルとオンラインで質疑応答(町の小学校合同で行っても◎)。視野を広げ、夢を広げて欲しい。例・宇宙飛行士からお相撲さんまで幅広く □人生における想像力をつけ、サバイバル能力をみにつける授業。自ら企画計画をし予算も与えられ、自分達なりの満足した経験をバラエティを持って身につけることによって、生涯身近な幸せを見つけられるように 例・BBQの日、テントの日、登山の日、yogaの日、 《少子化でも外で友達と遊ばせたい》 →でないと放課後習い事や家遊びで自然豊かな富士見町の良さを子育てに活かせない □“ゆめひろば便”…放課後各地区を周ってゆめひろばへ。ゆめひろばで野球～ふらっとで宿題～図書館で読書 など友達と遊んで学べる動線作り 余裕のない予算なので、もちろん毎日ではなくても地区や曜日を変動させ、習い事などで利用できない子供がでないように工夫 □各地区の子供会行事を公にし、移住者などへアピール。地区の垣根を柔軟にし少子化に対応。役員(両親)の負担軽減を目的とした、幅広い年齢層からのお手伝い募集(中学生からお年寄りまで)。
4	様々な立場の方とお話すると思ってもよらない意見が出るので、とてもおもしろいと思いました。 楽しく子育てや教育、地域についてシェアできて良かったです。	
5	富士見町に住む、他の町民のみなさんの意見やお話を聞けて、とても貴重な体験となりました。自身の価値観や考え方に影響する機会となり、今回このようなワークショップを開催いただき、本当にありがとうございました。	